

令和 4年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		国際交流推進事業		担当課	市民協働推進課
総合計画	政策	ひと		計画期間	平成元年度～
	施策	人権の尊重と多文化共生社会の実現		種別	任意の事務
	基本事業（取組）	国際交流の推進		市民協働	事業協力
予算科目コード		01-020703-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市青少年海外派遣実施要綱 外国人のための語学支援者登録制度要綱	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
もりや工業団地にドイツとアメリカに縁のある企業が進出したことをきっかけに、ドイツ・マインブルク市（平成2年）、アメリカ・グリーリー市（平成5年）と国際姉妹都市を提携したことから、市民レベルでの訪問・交流が始まった。	姉妹都市交流として、国際姉妹都市からの市民・学生等の訪問を受け入れ、守谷市民との交流の機会を設けて市民レベルでの交流を推進する。 来市した訪問団の市民宅へのホームステイを実施し、市内学校訪問や観光等を行う（令和2・3年度中止）。令和4年度にドイツからの訪問団の受け入れを再開している。 守谷市国際交流協会と連携し、訪問団へ日本文化体験の場を提供する（令和2・3年度中止、令和4年度再開）。 夏休み期間に姉妹都市に守谷市の青少年を派遣し、ホームステイを通じて市の国際交流事業の担い手育成及びグローバル社会に対応できる人材育成を実施する（姉妹都市2市を1年交代で訪問、令和2・3・4年度中止）。 守谷市国際交流協会を支援し、地域に暮らす在留外国人のための日本語教室、国際理解を推進している。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
国際姉妹都市との友好関係を築くとともに市民同士の交流を推進することで、市民の国際意識の高揚を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、異文化を尊重・理解して、外国人と接することができるようにする。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
①青少年海外派遣 ・一部の市民（中高生10名程度）しか参加できない。 ・事業の実施可否が国際情勢に大きく左右される。	①青少年海外派遣 令和4年4月： 新型コロナウイルスの影響により事業中止決定 令和4年12月～令和5年2月： R5年度事業実施可否及び単発事業検討・決定
②姉妹都市交流 国際交流員がドイツ人ということもあり、ドイツ（マインブルク市）についてはイベント等を多数実施できているが、アメリカ（グリーリー市）については市民に理解の場を提供できていない。	②姉妹都市交流 令和4年3月： マインブル市訪問団の来市決定 令和4年4～8月： マインブルク市訪問団来市に伴うスケジュールリング、各種機関との調整 令和4年9月： マインブルク市訪問団来市 令和4年12月： 姉妹都市へのクリスマスカード送付 令和5年1～3月： R5年度事業検討・決定
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
①青少年海外派遣 広く市民に機会を与えられるよう、個人のホームステイ・留学等に対する支援・助成金事業に転換することも一つの案として、全国の事例などを調査しながら検討する。	
②姉妹都市交流 アメリカ（グリーリー市）についても、市民がその文化に興味を持ち、理解できるようなイベント等を実施する。教育指導課と連携して、両市の小学校交流を促進させる。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

R03年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R04年度の振り返り）	
R03年度の評価（課題）	R04年度の実績（評価、課題への対応）
新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった青少年海外派遣事業の代替イベントとして、オンラインでの姉妹都市交流活動を実施した。また、コロナ禍においても、十分な対策を講じた上で、守谷市国際交流協会が日本語講座等を実施した。	新型コロナウイルス感染症の影響で姉妹都市交流は中止になっていたが、令和4年9月下旬に、マインブルク市訪問団を市に迎え入れ、姉妹都市交流を再開した。7日間の滞在で、ホームステイ先の家庭や守谷市国際交流協会による日本文化体験、ウェルカムパーティーをとおり、友好関係を深め、市民の国際意識の高揚を図ることができた。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	目標値（R08）
国際交流関連事業の延べ参加者数 ※基準値は令和元年度の実績（人）	5,318.00	6,262.00	5,318.00	2,031.00	2,970.00	4,568.00	6,500.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）							
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響でメイン事業である青少年海外派遣事業が中止となったが、令和4年度はマインブルク市訪問団を迎え入れ、互いの交流を深めたことから、成果は向上している。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	ホームステイについては、受入、派遣ともに、市民の関心は依然高いため、事業は継続する。しかし、近年のSNS等の浸透により、世界中の様子がリアルタイムで感じられるようになっている点、海外旅行が身近なものになっている点、国際情勢や感染症の流行など時事的な影響により事業が大きく左右されてしまう点などから、国際交流推進事業の内容については、実施手法等について検討を続けていく必要がある。					

コストの推移						
項目		R02年度決算	R03年度決算	R04年度決算	R05年度予算	R06年度見込
事業費	計	2,010	2,002	2,485	9,142	9,142
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	2,010	2,002	2,485	6,402	6,402
	一般財源	0	0	0	2,740	2,740
正職員人工数（時間数）		739.00	534.00	1,506.00	1,506.00	1,506.00
正職員人件費		2,991	2,066	5,807	0	0
トータルコスト		5,001	4,068	8,292	9,142	9,142